

岩手県教育委員会教育長
佐藤一男様

要望書

令和7年12月11日

花巻市長 上田東一

花巻市教育委員会教育長 佐藤勝

【要望項目】

「第3期県立高等学校再編計画」における花北青雲

高等学校情報工学科の募集停止見直しについて

【要望趣旨】

「新たな県立高等学校再編計画（前期計画）」が平成28年3月29日に策定され、当市に設置されている県立高等学校のうち、大迫高等学校につきましては1学級校として存続することをお認めいただき、また、花巻南高等学校、花北青雲高等学校については、学級減等の対象となっていましたが、いずれも実施が見送られたところであります。さらに、令和3年5月24日に公表された令和3年度から令和7年度までを計画期間とする後期計画においても、当市に設置されている県立高等学校については、いずれも再編の対象とならなかつたところであり、県立高等学校の再編に係る県教育委員会のご英断に深く感謝申し上げる次第です。

本年4月には、「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」が策定され、令和8年度からの新たな再編計画策定に向けた検討が進められているところであります。8月に公表された「第3期県立高等学校再編計画（当初案）」において、当市に設置されている花北青雲高等学校情報工学科の令和10年度からの募集停止が盛り込まれたところであり、さらには複数の小学科・学系を併置する学校の学科・学系の募集停止基準が新たに明記されたところであります。

当市としましても、地域の産業界や同校関係者の声をお聞きしながら8月に行われた地域検討会議の場でも見直しの必要性を申し上げたところですが、11月に示された同計画（修正案）において関係者の切実な想いが当初案の変更に至らなかつたことに対し、誠に残念に感じている次第です。

少子化に伴う長期的な生徒数の減少が見込まれる昨今において、この度の

岩手県教育委員会における推計では、今後の中学校卒業予定者数は、次期計画終期の令和17年3月には、本年3月と比較し3千人近い減少が見込まれているとのことであり、本県において一定の学級数の減、募集停止、学科改編や統合などの検討を進めていくことが必要であるものと推察いたします。

その場合、工業に関する学科において、まずは現計画に示しておきながら未だ見通しの立たない水沢と一関の工業高校統合が第一の優先課題として岩手県教育委員会において全力で取り組む必要があるものと思われます。

また、新たな複数の小学科・学系を併置する学校の学科・学系の募集停止基準では、入学志願者の数が2年連続して10人以下となった場合に原則募集停止と示しているにも拘わらず、志願者数が令和6年度に31人、令和7年度は27人であった花北青雲高等学校情報工学科を募集停止とすることについての整合性が全く取れておらず理解出来かねるところであります。

職業教育のセンタースクールとして位置付ける黒沢尻工業高等学校については、半導体関連の学科へ改編するという説明のみであり、具体的に情報工学の教育分野に関する内容を示さないまま、花北青雲高等学校情報工学科の募集停止を盛り込むのは無謀かつ拙速と考えるところであり、中学生、中学校にとって進路選択にあたっての選択肢を狭めてしまうのではないかと感じます。

職業系専門学校は私立が行わない分野で、産業界、地域からのニーズは極めて高く、特に情報系については、中学生にとっても魅力ある学科であり、当面はセンタースクール設置校の改編効果を見定めていくことが重要ではないかと考えるところであり、慎重に検討すべきで、むしろ予算や人材を確保のうえバックアップしながら情報工学科を存続させ、産業界の要望に応えていくこそ必要ではないかと感じております。

本市に設置される県立高等学校5校においての入学者数は定員を割る状況ではありますが、令和7年度入試における県全体の充足率75.6%に対し、5校の充足率は合計で84.2%と県平均を大きく上回っている状況にあります。

本市を見た場合、本市外校への入学者数よりも本市外から本市設置校への入学者数が多い状況となっており、本市外からも魅力ある高校と評価されているものと捉えております。

県立高等学校の今後の在り方について、人口減少、少子化を踏まえ、効率化、コスト削減という視点を中心とした検討が進められているのではないか、そのことにより長期的に見れば地域の力を奪い、若者の可能性を狭める結果になりかねないのではないかと危惧しております。

これからの中学生たちの高等学校教育の機会均等を堅持することは、本県の将来を担う人材の育成という観点から極めて重要であり、また、地方創生への取組の推進という側面からも高等学校の存続や定員の維持は必要不可欠な要素であることから、改めて以下の内容について、第3期県立高等学校再編計画（修正案）を見直しいただくよう強く要望いたします。

【要望内容】

花北青雲高等学校は、平成15年度から現在の校名で県内初の「総合的専門高校」として、県内実業高校でも上位の学力、県内への多くの就職実績を上げるなど、地域経済の発展に大きく寄与してきたところであります。

同校情報工学科は、ビジネス情報科や総合生活科との関係性を重んじたカリキュラムで、工学系のみならず幅広い学びを身につけることができる点で特色ある工学系の学科となっており、体質的に黒沢尻工業高等学校の学びと卒業生の進路も異なり、花北青雲高等学校の卒業生は、近隣の工業高校と比較しても、その多くが地元企業への就職を希望する傾向にあります。情報工学科の募集停止によって、同校の魅力が失われることは、産業界にとっても大きな損失となると考えます。

一方で、近隣高校の工学系学科の卒業生においては県外就職者が多く、地元企業へ就職を希望する学生が少なくなっていることから、市内及び周辺市町企業においては採用に苦慮していると伺っております。

このような中、市内の企業からは、地元への就職を希望する学生を輩出している花北青雲高等学校情報工学科の存続を望む声が大きいところあります。

同学科は、「総合的専門高校」における工業系学科ということから、他の専門の工業高校とは異なる学びの魅力と特色、いわゆる校風があつての今までの実績があるものと認識しております。

また、同校では魅力的な部活動が揃い、積極的に励まれているところですが、特にバドミントン部においては男女ともに県内屈指の強豪校で、全国でも多くの活躍を見せていくところあります。

同学科の募集停止により、場合によっては部活動の存続、生徒のモチベーションにも影響を及ぼすことが見込まれるところであり、それらを踏まえ、花北青雲高等学校情報工学科を募集停止するべきではなく、今後も存続していただくよう強く要望いたします。